



EU総代理店ケラパック(スペイン)

セールスマネージャー

パブロ氏来社インタビュー

WORLD NEWS



このたび、ヤナギヤのEU総代理店契約を結ぶスペインのケラパック社よりパブロ氏が来社され、国際部との今後のEU市場への販売拡販について協議が行われました。

(来社の目的は?)

今回、来社の目的は3つあります。第1は長年ヤナギヤの担当者であったフォーネルが2月14日にリタイヤしたことで、私が今後ヤナギヤのセールス担当となることをお伝えする事が大きな目的です。第2にケラパックは兄が社長として全体的な仕事を統括していますが、弟の私がおもって営業レベルを上げるために直接今後の戦略についてヤナギヤと話し合うためです。第3に私自身がヤナギヤの機械についてトレーニングするためです。カニカマラインの他、IHフライヤー、豆腐、カマボコなど新しい技術についても学ぶため、今後これらの技術サポートをお願いしたいと思っています。

(ヨーロッパ市場について)

スペイン経済は26%の失業率はあるものの少しは上昇傾向です。日本では安倍政権の掲げる経済政策が円安を誘導し、ヨーロッパでの販売環境も良い状態にあります。カニカマについては大きな伸びは見込めず、2~3%の伸びだと思えます。スーパータイプの新カニはスーパーで価格の安いものから売れるため、価格帯の高いものはまだ売れていないのが現状だと思えます。

豆腐についてはスペインではダイエット食として木綿豆腐の硬いものを小さく切ってサラダに混ぜたりして食べます。今のところメーカーは「ナチュラルソイ」1社のみで、生産はバッチスタイルで工業的な生産ではありません。

(来社後の感想は?)

今回のミーティングでパートナーシップがより一層深まりました。ヤナギヤの水産練り製品機械以外にも豆腐や様々な食品分野での取り組みが勉強できたことは今後の販売の選択肢が大きく広がりました。これからの将来については非常に可能性があると感じています。EUの経済状況はあまり良くはありませんが、未来は明るいと信じています。



Seafood Processing America 2013 2013.3.10~12

シーフードプロセッシングアメリカ 2013

初出展レポート 国際部 大田幸雄

本展示会は、ブラッセルと並ぶ世界2大シーフードショーと言われていただけあって、アメリカを始め、南米・アジア・ヨーロッパなどの参加企業の国も様々です。出展社数は、46ヶ国より1,011社。来場者数は、111ヶ国より12,246人(7,468企業)で、当社のお客様も多数ブースを出しておられました。初めての出展で不安はありましたが、当社ブースにも新規も含め多数ご来場をいただくことができ、カニカマラインや型成機などを紹介させて頂きました。また生食用カニカマの試食コーナーでは、みなさんからとてもよい反応を頂くこともでき、今後の生食用の需要増加に手応えを感じました。



(ヤナギヤブース)



SEAFOOD PROCESSING EUROPE 2013 レポート：国際部 部長 谷村俊文

今年のブラッセルの印象としては、昨年よりもカニ棒の出展が多く見られ、中でも極細繊維の高級カニカマのサンプル展示が多かったように感じました。また、寿司のサンプル展示も昨年より多く見かけ、ブースの装飾には和食風な写真が多く使われており、寿司・和食ブームはヨーロッパでこれからも続くと思われれます。よって、寿司用の高級カニカマもそれに伴い市場が広がっていくことが予想できます。

